

農業技術革新・連携フォーラム2022

オンライン 開催案内

2023年1月

我が国における人口減少に伴う労働力不足は深刻な課題となっており、これからの日本農業の安定的かつ持続的発展には生産性の向上及び流通改革等が必須である。このような状況を踏まえ、農業・食品分野における最先端の研究成果を持つ「農研機構」、時代の潮流に先んじて経営発展を目指す「農業法人」、日本経済の自律的な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする「日本経済団体連合会」が、相互に理解を深め連携することにより、農業生産の現場における更なる技術革新の実現を通じて、日本農業の安定的かつ持続的発展及び国民生活の向上に貢献するため、本フォーラムを開催する。

主催・協力

主催：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、日本経済団体連合会、日本農業法人協会、株式会社クニエ
協力：日本政策金融公庫、農業経営支援連絡協議会

参集範囲

農業生産者、関係組織、民間事業者、研究機関等

日程

開催日程：2023年1月10日（火）12:00～2月28日（火）17:00

オンライン会場・参加申込

<https://rf2022.gakkai.online>

上記URLの「新規登録はこちら」から参加者（ユーザー）登録を手続きのうえご入場ください。
参加費は無料です。会場は、（株）AGRI SMILEの「ONLINE CONF」を利用します。

ユーザー登録手順マニュアル：<https://hojin.or.jp/wp-content/uploads/2022/11/ONLINE-CONFuser-RF2022.pdf>
システム操作に関するお問合せ先： support@gakkai.online



プログラム

(1)・(3)オンデマンド配信、(4)オンタイム配信後、アーカイブ動画を掲載

- (1) 主催者挨拶 久間和生（農研機構 理事長）
磯崎功典（日本経済団体連合会 農業活性化委員長）
香山勇一（日本農業法人協会 会長）
 - (2) 基調講演 グリーンリーフ株式会社 代表取締役 澤浦彰治 様（1月13日10:00～）
会場：農研機構 農業機械研究部門 はなの木ホール・ZOOM ※オンタイム配信のみとなります
 - (3) 展 示 会 スマート農業、生産・基礎技術、資材機材、経営管理等
 - (4) 分 科 会
 - 1月31日(火)13:15～15:50 都府県におけるイアコーンの生産利用技術
 - 2月 3日(金)13:30～15:30 「みどりの食料システム法」活用セミナー
 - 2月 8日(水)13:15～15:30 農業データ連携基盤WAGRIを活用したデータ駆動型農業に向けて
 - 2月10日(金)14:00～15:30 我が国の食料・農業の姿について～地域計画に描かれる地域農業の将来像～
- ※基調講演及び分科会の申込方法や開催概要は、参加申込後にイベントサイト内でお知らせします。

お問合せ先

（株）クニエ

E-mail suzukimc@qunie.com（鈴木亨弘）

TEL：090-1650-4708

セミナー・分科会一覧

日時・内容

1月31日(火)13:15～15:50 「都府県におけるイアコーンの生産利用技術」

穀物を主体とした家畜用濃厚飼料の自給率は12%にとどまっており、輸入価格の未曾有の高騰が続く中、我が国の酪農畜産経営は大きな圧迫を受けています。濃厚飼料の自給促進の一環として近年、子実トウモロコシやイアコーンといった「子実用トウモロコシ」が注目を集め、北海道等の大規模生産地を中心に生産が広まりつつあります。しかし、粗飼料すら十分に自給できていない地域や大型機械の導入が困難な地域など、飼料の専用畑に限られる都府県で普及を図るには様々な課題があります。そこで、農研機構農業機械研究部門では、これまでになかった露地野菜生産との連携の可能性に着目し、都府県におけるイアコーン生産利用体系の構築に向けた技術開発に取り組んで参りました。本セミナーでは、その研究成果をご紹介します。今後の普及に向けた可能性や課題について議論致します。

【主催者】 農研機構

【内 容】 講演・パネルディスカッション

(1) 話題提供

都府県におけるイアコーン生産利用体系のコンセプト(農研機構 農業機械研究部門 機械化連携調整役 志藤博克)

汎用型飼料収穫機に装着できるイアコーン収穫スナッパヘッドの開発(株式会社タカキタ 製造開発本部

特任部長 岡嶋 弘)

野菜作との輪作を想定したイアコーン栽培とイアコーンサイレージの品質(徳島県立農林水産総合技術支援センター

畜産研究課 統括研究員 福井弘之)

飼料用トウモロコシの茎葉緑肥の効果(岡山県農林水産総合センター 農業研究所 環境研究室 研究員 上田直國 /

徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課 研究係長 鈴江康文)

(2) 総合討議 コメンテーター 株式会社那須の農 委員長 藤原基男

アグリアシストシステム株式会社 代表 石原聖康

座長 農研機構 農業機械研究部門 機械化連携調整役 志藤博克

2月3日(金)13:30～15:30 「みどりの食料システム法」活用セミナー

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立に向けた「みどりの食料システム戦略」(令和3年5月農林水産省策定)を踏まえた新たな法制度として、令和4年7月に「みどりの食料システム法」が施行されました。

同法では、化学肥料や化学農薬の使用低減など環境負荷の低減に役立つ技術の普及拡大を応援しています。農水省担当官から制度の概要説明を行うほか、実際に同法で認定を受けた各事業者から技術を紹介します。

【主 催】 農林水産省 みどり戦略グループ

【内 容】 セミナー

13:30 開会

13:35 みどりの食料システム法・みどり税制の御紹介(農林水産省)

13:45～ 制度を活用する事業者の取組紹介(12事業者から情報提供)

15:30 閉会

2月8日(水)13:15～15:30 「農業データ連携基盤WAGRIを活用したデータ駆動型農業に向けて」

農研機構は、様々な農業データの連携と活用を図る目的でWAGRIを運営していますが、取組みの内容や農業現場におけるデータ活用について、広く知っていただく場として、本分科会を企画しました。「データ駆動型農業」を実践されている農業者様から、取り組み状況や課題を講演いただきます。また、講演者によるパネルディスカッションにて、データ駆動型農業のはじめ方を討論します。

【主 催】 農研機構

【内 容】 講演・パネルディスカッション

13:15 開会

WAGRI紹介(農研機構WAGRI推進室)

実践例①営農支援システム

実践例②農地データのクラウドサービス

実践例③経営管理クラウドサービス

パネルディスカッション

15:30 閉会

2月10日(金)14:00～15:30 「我が国の食料・農業の姿について～地域計画に描かれる地域農業の将来像～」

農業者の減少や耕作放棄地の拡大傾向が加速化する中で、我が国の食料・農業の姿を統計データに基づき分析し、世界における日本農業の位置づけや農畜産物の生産・消費動向などから目指すべき食料・農業像を考えるとともに、改正農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画(人・農地プランの法定化)の策定を通じて、市町村等が地域農業の担い手や参入希望者などとともに描くべき地域農業(農地利用)の将来像を考える。

【主 催】 公益社団法人日本農業法人協会

【内 容】 セミナー テーマ:「我が国の食料・農業の姿について」(仮)

(1) 講演 施策説明と質疑応答(農林水産省)

(2) 質疑応答

オンライン技術展示出展者一覧

番号	出展者名	展示タイトル
1	農研機構	たくさん収穫できる大豆品種の育成について
2	農研機構	耕種と畜産を結ぶ子実トウモロコシ～耕畜連携による持続可能な畜産物生産～
3	農研機構	暑さに強く、おいしい水稻品種「にじのきらめき」
4	農研機構	畝立て、直下施肥、溝底播種が同時にできる作業機～タマネギの直播栽培が安定します～
5	農研機構	カットシリーズに本暗渠敷設機カットドレーナー新登場～トラクタで手軽に本格的な排水改良～
6	農研機構	キツ～イ傾斜もおまかせ！ らくらく草刈ロボ
7	農研機構	牛のゲップのメタン簡易推定マニュアル～牛からのメタン排出量を推定できます～
8	農研機構	有機・減農薬栽培に適した茶品種 「せいめい」「かなえまる」「さえあかり」
9	農研機構	豚の抗病性改善のためのDNA育種マーカー
10	農研機構	緑肥利用で化学肥料の節約と土づくりを
11	農研機構	着果モニタリングシステム～A I を活用して 栽培・労務管理を最適化～
12	農研機構	土壌管理アプリで農地管理の見える化～資材施用の肥料効果から炭素貯留まで～
13	農研機構	収量・品質予測技術を活用した施設生産で「全ての担いがデータ活用」の実現へ
14	農研機構	気象情報から露地野菜の作況を先読みするNARO生育・収穫予測ツール
15	農研機構	デジタルで日本の農家を応援します！ 農業データ連携基盤 WAGRI（ワグリ）
16	農研機構	農研機構の乳酸菌ライブラリー～NARO乳酸菌で新たな醗酵製品を開発しませんか？～
17	農研機構	イースト菌利用は製パンだけではもったいない～一緒に新たな活用方法を模索しませんか？～
18	農研機構	サンプルを置くだけで「香り」の強さを測定するセンサー
19	農研機構	インライン型3Dモデリング装置で4D観察を！～人工気象器内に設置した装置で連続した生育観察を実現～
20	農研機構	植物の3次元熱画像で異変を感知？～3次元で植物研究のブレークスルーを実現しよう！～
21	農研機構	農地周辺の生物情報を環境DNAでウォッチー カワヒバリガイの駆除に有効ー
22	農林水産省 大臣官房 みどりの食料システム戦略グループ	みどりの食料システム法の認定制度・みどり投資促進税制のご紹介
23	有人宇宙システム株式会社	衛星と気象データから生育状況を分析・解析し、圃場の「見える化」により農薬・肥料コスト削減、品質安定・生産性向上を支援
24	株式会社ポータス	自社開発の養豚ソフトや牛のトレーサビリティシステム、その他畜産業向けのIoT製品などでスマート畜産をサポート
25	株式会社セラク	みどりクラウド：環境モニタリングと遠隔環境制御を実現するスマート農業サービスで再現性高い農業技術を支え、収益性に貢献
26	グラス I T フィールズ株式会社	スマートフォン連携ビニールハウス環境制御装置Agrilanderの出席
27	株式会社 オムニア・コンチェルト	環境統合制御機器、CO ₂ 局所施用コントローラー、しいたけ周年栽培システム、縦型水耕栽培システム、農林業用木製ハウス
28	ハイパーアグリ株式会社	1. 水稻用イオン水生成装置、2. 水稻用自動給排水装置、3. 害獣捕獲通知システム
29	株式会社ルートレック・ネットワークス	AI自動灌水施肥システム ゼロアグリを展示
30	株式会社オーレック	水田除草機WEEDMANのみどり投資促進税対象の周知。本機の仕様、性能等の動画、写真の展示。
31	三陽機器株式会社	リモコン式自走草刈り機（AJK600）のご紹介
32	株式会社アテックス	ラジコン草刈機『神刈』RJ705はじめ、弊社製品PR
33	株式会社ササキコーポレーション	電動リモコン作業機スマモは誰でも簡単操作で、楽々・安全作業。アタッチの付替で広幅草刈・畦草刈・際草刈等に活用できます。
34	グランドグリーン株式会社	名古屋大学発のベンチャー企業。さまざまな作物・品種に適用可能なゲノム編集技術を開発。品種開発の技術提供サービスを行う。
35	株式会社TOWING	脱炭素と有機転換を両立する“高機能バイオ炭”の普及に向けた取り組みに関するご紹介です。
36	株式会社アドホック	①有機分解率50%以上の堆肥化とアンモニア製造を同時に進める装置 ②二酸化炭素回収とそれを利用できる装置 ③高カロリーな植物由来の炭
37	三好アグリテック(株)	民間企業で初となる、種子繁殖型品種のF1種子イチゴ「ベリーポップ」シリーズの2品種「はるひ」「すず」をご紹介。
38	日本BCP株式会社	緊急災害時の燃料配送など、企業・団体の事業中断リスクを低減し、「命をつなぐ」ための総合防災・減災企業を目指しています。
39	株式会社ナイルワークス	ナイルワークスは、高精度・自動飛行の農業用ドローンの企画製造販売、農業DXを推進する技術・サービス開発を行っています。
40	株式会社日本コンピュータコンサルタント	moopadは繁殖農家の負担となる発情監視や分娩管理をビッグデータで楽に確実に管理できる和牛繁殖農家用の管理サービスです
41	日本石灰窒素工業会	国産石灰窒素は、一つの資材で肥料・農薬・土づくりの3つの効果を発揮します。それぞれの効果について詳しく紹介します。
42	みのる産業株式会社	みのる産業より、有機・無農薬栽培に適した田植機や水田除草機、慣行散布の農薬量から約30%減を目指す静電噴口をご紹介します。
43	井関農機株式会社	生育ムラの改善や肥料価格の高騰対策に有効な『可変施肥田植機』、水に浮かべる自動抑草ロボット『アイガモロボ』などの紹介
44	株式会社 環境デザインラボ	新製品【土耕すずミスト】◆軽量で移動も自由、ポンと置くだけ簡単設置◆猛暑の温室で作物と作業者を同時に冷却。熱中症対策にも
45	JA三井リース株式会社	"リース業界初！LINE公式アカウントを開設！週1回の情報発信で、最新の情報を入手できます。スマホで簡単にお問い合わせも可能です。"